

## 〔平成25年度新収蔵作品紹介〕

## 小林万吾「朽葉の袖」

描かれている女性は、曾我兄弟の仇討物語『曾我物語』に登場する、兄十郎の恋人虎御前です。十郎が父親の仇討に向かうため、彼から受け取った朽葉文様の着物を被り、別れる場面だと思われま。

作者の小林万吾（1870—1947）はこの作品を、1907（明治40）年第1回文展に「物思い」（東京芸術大学美術館蔵）とともに出品しました。

香川県に生まれた万吾は、原田直次郎、黒田清輝に師事し、1896（明治29）年東京美術学校開設とともにその西洋画科に入学、卒業後は同校で教鞭をとるようになりました。外光表現を追求しながら浪漫主義的な主題も

好み、それが彼の作風の特徴でもあります。明治の末にはフランスへ留学し、その後、自らの画塾同舟舎を開設します。そこは若い画家たちが美術学校へ入るための修行の場にもなり、郡山市ゆかりで当館収蔵作家である鎌田正蔵や土橋醇、佐藤昭一らもそこで学び、晴れて東京美術学校に入学したのでした。

（当館学芸員 菅野洋人）



作者名 小林万吾  
作品名 朽葉の袖  
制作年 1907(明治40)年

技法・材質 油彩・キャンバス  
寸法 168.0×112.4cm

# ロベール・ドアノー写真展

パリ・アルプス・幸せな時間

会館 6月15日(日)まで  
 休館日 毎週月曜日  
 (5月5日は開館、5月7日は休館)

観覧料 一般 800(640)円  
 高校生 500(400)円  
 ※( )内は20名以上の団体料金。中学生以下、65歳以上の方、障がい者手帳をお持ちの方は無料。

主催 郡山市立美術館  
 後援 在日フランス大使館  
 協賛 アンステイチュ・フランセ日本  
 エールフランス航空  
 企画協力 コンタクト

フランス人写真家、ロベール・ドアノー(1912-1994)の写真の大きな魅力は、見る人を画面のなかに招き入れるような親しみやすさだと言えるでしょう。さらに、さりげないような瞬間に意表を突かれたり、ユニークな「偶然」に思わず笑ってしまったり。たとえば「芸術橋の上のフォックス・テリア」では、セーヌ河に架かる芸術橋の上で、ドアノーが茶目つづ気ある演出によって「画家とモデル」の様子を撮影していたところ、コート姿の男性が犬を連れて偶然通りかかると、カメラに収められたと言われます。鎖を手に覗き見するような男性の佇まいと、カメラ目線の堂々とした犬の姿がなんとも好対照で、ドアノーのあたたかなユーモアのセンスが伝わってくる一点です。



「芸術橋の上のフォックス・テリア」1953年 ©Atelier Robert Doisneau/Contact



「ホテル・ユンプロ、ラフレ、冬」1957年 ©Atelier Robert Doisneau/Contact

ユンプロ、ラフレ、冬」は、1957年のクリスマスにフランス南東に位置するラフレ村のホテルで撮影された、家族の記念写真ともいえる一枚です。左から二番目が妻のピエレット、中央には娘のアネットとフランシーヌ、親戚の子どもたち。全員が、心の底から満ち足りているかのように大きく口を開けて笑っています。フランシーヌの娘クレモンティーヌさんはこう言います。「祖父ロベールは、家族を撮影するとき、ひとりひとりがすばらしい人生の登場人物になったような気持ちにさせてくれたのです。」

本展では、パリとアルプスを舞台に撮影されたドアノーの代表作約150点を展示しています。人々の幸せな時間が活写されたドアノーの世界をどうぞおたのしみください。

会期中のイベント

●公開ワークショップ  
 「体験！手作りカメラでフォトモンタージュ」

講師 増谷寛さん(植田正治事務所)  
 日時 5月31日(土) 午後1時から  
 会場 創作スタジオ(無料)

●講演会「ロベール・ドアノーの世界」  
 講師 堀江敏幸さん(作家、仏文学者)  
 日時 6月1日(日) 午後2時から  
 会場 多目的スタジオ(無料)

●ギャラリートーク  
 講師 当館学芸員  
 日時 6月14日(土) 午後2時から  
 会場 企画展示室(要観覧券)

## 郡山市制施行90周年・合併50年記念

# キュー王立植物園所蔵 イングリッシュ・ガーデン 英国に集う花々



(図1) ガートルード・ジーキルがデザインしたディナーリー・ガーデン

会期 6月28日(土)～8月24日(日)  
 休館日 毎週月曜日(7月21日(祝・月)は開館、翌日休館)  
 観覧料 一般 1,000(800)円  
 高校生・大学生 500(400)円  
 ※( )内は20名以上の団体料金。中学生以下、65歳以上の方、障がい者手帳をお持ちの方は無料。  
 主催 郡山市立美術館  
 後援 プリティッシュ・カウンシル  
 協賛 日本航空  
 企画協力 プレントラスト

美しい花々が咲き誇るイングリッシュ・ガーデン(図1)。彩り豊かな庭の美しさを競い、時にはそこで、アフタヌーン・ティーを楽しむ。イギリス人の庭と植物への愛情と洗練された趣味が感じられる光景です。

今日、庭を彩るいかにイギリスらしいと思われている花々の多くが、実は世界中から持ち込まれたものであることをご存知でしょうか。植物を追い求めるイギリス人の情熱は、科学的発見や経済的価値など様々な目的に支えられていました。18世紀から19世紀にかけて、イギリスにおいて植物画が流行したのには、単に花が美しくただだけではなく、科学的な知見の成果でもあったのです。

とりわけ、ロバート・ジョン・ソントン(1768頃-1837)が編集した「フロラの神殿」は、植物図譜の至宝のひとつに挙げられます。その特徴のひとつは、それぞれの花々にふさわしい背景が与えられている点です。それまでの植物画は無地の背景に草花を描くことが一般的だったのです。

「ゲットウ」(図2)は、花の真紅と黄と白が鮮やかなコントラストを成しています。花をたくさんつけるにつれ、頭を垂れるように傾いていく様子が、したたる玉露とともに見事にとらえられています。

(図2) ピーター・ヘンダーソン「ゲットウ」(R・J・ソントン編「フロラの神殿」より) 1801年。銅版・紙



本展には、世界屈指の植物園で、世界遺産に登録されているキュー王立植物園のコレクションのなから貴重な植物画を紹介するとともに、自然や植物をイメージの源泉とする優れた工芸品、さらに植物に魅了されたウィリアム・モリスのデザインなど約150点が出品されます。ぜひご覧ください。

(当館学芸員 富岡進)

会期中のイベント(最終日もご覧ください)

●講演会「キュー王立植物園と植物画の歴史」  
 講師 大場秀章さん(理学博士、東京大学名誉教授)

日時 8月17日(日) 午後2時から  
 会場 多目的スタジオ(無料)

●ギャラリートーク  
 日時 7月12日(土)、8月16日(土) 午後2時から  
 講師 当館学芸員

会場 企画展示室(要観覧券)

●公開ワークショップ  
 「ハーブで楽しむイングリッシュ・ガーデン」

日時 8月10日(日) 午後2時から  
 講師 瀧田勉(ハーブ研究家)

会場 一階ロビー(無料)

●美術講座  
 「イングリッシュ・ガーデンに魅せられた人々」

日時 8月23日(土) 午後2時から  
 講師 当館学芸員

会場 講義室(無料)

●映画会 ※いずれも開場は30分前  
 会場 多目的スタジオ(無料)

・「ラヴェンターの咲く庭で」  
 (2004年、チャールズ・ダンス脚本・監督)  
 日時 7月6日(日) 午後2時から

・「秘密の花園」  
 (1993年、ア・エシユカ・ホルランド監督)  
 日時 7月20日(日) 午後2時から

・「英国式庭園殺人事件」  
 (1982年、ピーター・グリーナウェイ監督)  
 日時 8月24日(日) 午後2時から

# 美術館での出会い

安藤 真司 (版画家)

大学受験のために新宿の予備校に通っていた頃、掲示板に貼ってあった一枚のドローイングのポスターが目にとまりました。「ホルスト・ヤンセン展」。当時は、まだ聞いた事がない作家でしたが、どうしても気になり、鎌倉の近代美術館へ出かけました。ドローイングの他に版画作品も多数展示されていて、版画の技法についての知識がなかった私には、どうしてこのように描けるのか疑問でなりません。崩れそうな太い線、消え入りそうな細い線、滲んだような危うい線、そして水彩画のような淡い調子。ホルスト・ヤンセンの退廃的な画風にひかれたのも事実ですが、作品を初めて目にした時の感動は忘れません。決して几帳面な作品ではなく、偶然に決まりましたと思われるキズも多いのですが、それさえもが作品の魅力として見えてきました。紙に刷られ、プレートマークで囲まれた四角い小さな世界



指導中の安藤さん(左から3人め)

に、時間を忘れ見入ってしまいました。それが金属を腐蝕するエッチングとアクアチントの技法であることがわかったのは、大学二年生の銅版画の講義でした。油絵科に入学した私でしたが、線描が好きでエッチングが自分を表現するのにとても適した技法であると実感させられました。それ以来銅版画を続けています。

偶然、目にしたポスターがきっかけで行った美術館が、私の銅版画との初めての出会いの場所でした。その後、影響を受けた作家は何人かいますが、今思えば私を銅版画の道へと導いてくれたのは、あの美術館での展覧会だったのかも知れません。その時に買ったポスターは長い間、部屋に貼ってあったので色あせてしまい、カタログは幾度となくページをめくったので、ポロポロになってしまいましたが、今も大切にしています。



受講生たちと合評会をする安藤さん(右から3人め)

## ワークショップ「銅版画講座」

平成26年3月1日(土)、2日(日)、9日(日)、16日(日)  
 講師 安藤真司さん(版画家)  
 会場 多目的スタジオ

# 絵本原画展



## きかんしゃトーマスとなかまたち

会期 9月6日(土)ー10月26日(日)

休館日 毎週月曜日(9月15日、10月13日は開館、各翌日休館)

観覧料 一般500(400)円 高校・大学生300(240)円

※( )内は20名以上の団体料金。中学生以下、65歳

以上の方、障がい者手帳をお持ちの方は無料。

主催 郡山市立美術館/読売新聞社/福島民友新聞社

福島中央テレビ/美術館連絡協議会

企画制作 渋谷出版企画

協賛 ライオン/清水建設/大日本印刷

損保ジャパン・日本興亜損保

協力 ヒット・エンタテインメント

ソニー・クリエイティブプロダクツ

ポプラ社/小学館



レジナルド・ダルビー「トーマスと車しよう」1949年  
 ©2014 Gullane(Thomas)Limited.



「テレビ撮影用車両模型」  
 ©2014 Gullane(Thomas)Limited.

森本レオさんやジョン・カピラさんのナレーションでおなじみのテレビ番組「きかんしゃトーマス」。イギリス本国でのナレーションは、元ザ・ビートルズのリンゴ・スターさんが担当していたこともあります。イギリス風景画そのまゝを背景にしたようなカットの数々は、人形劇からCGになった今でもそのみずみずしさを失っていません。そして何より、イギリス産業革命を象徴する蒸気機関車が主人公の「トーマス」は、まさにイギリスならではのキャラクターだといつていいでしょう。そもそも、このシリーズはウィルバート・

オードリー牧師が、はしかで寝込む息子に、元気な機関車たちのお話を創作して聞かせたのがはじまりです。そのお話は、何度も話していくうちに、イラストも加わって次第にまとまった物語になっていきました。そこで、1945年に最初の本が出版されます。物語の面白さに加えて、レジナルド・ダルビーの不透明水彩絵具による明るい色彩で描かれた絵本は、たちまちイギリスの子供たちの人気になりました。すると舞台となるソドイ島という架空の島が設定され、魅力的なキャラクターも増えていきます。絵本は、ダルビーを含んだ3組4人の画家たちによって原画が描き継がれ、現在も世界各国で出版し続けられています。最初の日本語版は1973年に出版されました。

今回は、それら絵本原画を中心に、テレビシリーズの撮影に使用された機関車のモデル車両なども展示して、「きかんしゃトーマスとなかまたち」の世界を紹介する構成になっています。絵本原画約340点と資料等でその魅力を探ります。(当館学芸員 菅野洋人)

**第13回風土記の丘の美術展  
郡山市内の小学生による展覧会**

会期／7月21日(月・祝)～8月24日(日)  
主催／郡山市立美術館・郡山市小学校造形教育研究会  
会場／展示ロビー  
市内を5つの地域に分けて、週替わりで展示します。展覧会とあわせてお楽しみください。

- 第1期** 7月21日(月・祝)～27日(日)  
安積第一、安積第二、安積第三、永盛、守山、御代田、高瀬、谷田川、田母神、栃山神、橘、小原田、桜
- 第2期** 7月29日(火)～8月3日(日)  
日和田、高倉、行健、行健第一、明健、小泉、行徳、富田、富田東、高野、鬼生田、三町目、大田、根木屋
- 第3期** 8月5日(火)～10日(日)  
柴宮、穂積、三和、多田野、多田野堀口分校、河内、開成、薫、大槻、大成、朝日が丘、ザベリ才学園
- 第4期** 8月12日(火)～17日(日)  
金透、芳山、芳賀、桃見台、赤木、白石、東芳、大島

**平成26年度〈アート・テーク〉**

3年目を迎えた〈アート・テーク〉。文字通り「アートを捉える」、さらに「アートから捉える」ことを目的とした年6回の文化講座です。いずれも無料です。

**第1回 「色の命、命の色」**

講師：志村ふくみさん（染織家・人間国宝）  
志村洋子さん（染織家）

日時：5月24日（土）午後2時から  
会場：多目的スタジオ（申込は締め切りました）

**第2回 「想像する力 チンパンジーが教えてくれた人間の心」**

講師：松沢哲郎さん（京都大学霊長類研究所教授）

日時：7月26日（土）午後2時から  
会場：多目的スタジオ

申込方法：7月12日(土)(必着)までに①住所、②氏名、③電話番号、④参加人数(2人まで)、⑤参加者の年齢と性別を記入し、ハガキまたはファックス、Eメール(bijutsukan@city.koriyama.fukushima.jp)で、件名は「アート・テーク応募」宛へ。※応募者多数の場合は抽選。



松沢哲郎さん



チンパンジーのアイちゃん  
写真提供：京都大学霊長類研究所

**第3回 「知のかたち—大学博物館編③東北大学」**

講師：佐治ゆかり（当館館長）

日時：9月27日（土）午後2時から  
会場：講義室（ご自由にご参加ください。）

緑ヶ丘第一、宮城、海老根、御館、御館下枝分校

**第5期** 8月19日(火)～24日(日)  
片平、喜久田、熱海、熱海石筵分校、安子島、上伊豆島、湖南、富田西、桑野、小山田

**「夏休み公開ワークショップ」  
第9回風土記の丘発  
図工と美術の時間へようこそ！**

小中学校の先生と一緒に、図工と美術の授業を体験。いろいろなテーマのコーナーでお待ちしています。

日時／8月2日(土)  
午前の部 11時～正午  
午後の部 2時～3時

講師／郡山市内の小中学校の先生  
会場／多目的スタジオなど  
定員／各コーナーとも  
先着15名程度。  
※予約はいりません。



昨年の「風土記の丘発 図工と美術の時間へようこそ」パートⅡの会場

**●参加者募集●**

**○ミュージアム・コンサート**

「美しきチェロの調べ」

サマー・ガーデンに寄せて

出演／横坂 源さん(チェリスト)他  
日時／7月13日(日)午後6時半から  
会場／階段ホール  
定員／180名

申込方法／6月28日(土)(必着)までに①住所、②氏名、③電話番号、④参加人数(2人まで)、⑤参加者の年齢と性別を記入し、ハガキまたはファックス、Eメール(bijutsukan@city.koriyama.fukushima.jp)で、件名は「ミュージアム・コンサート」応募一宛へ。  
※応募者多数の場合は抽選。

**○ワークショップ**

「ガーデンドesignをたのしむ」

講師／菊地裕美さん  
(ガーデンドesign森の風)  
日時／7月5日(土)午前10時から  
会場／創作スタジオ等  
定員／15名  
電話申込／締切7月29日(日)  
※応募者多数の場合抽選。

**○ワークショップ**

「命を染める—桜—」

講師／佐治ゆかり(当館館長)  
日時／8月9日(土)午前10時から  
会場／創作スタジオ  
定員／15名 材料費／3,000円  
電話申込／締切7月21日(月・祝)  
※応募者多数の場合抽選。



横坂 源さん

**TOPICS**

**美術館のカフェ  
juju 130 cafe**  
(ジュジュ イチサンマル カフェ)



ティータイムの定番・ケーキセット。  
ふんわり・しっとり焼き上げたシフォンケーキ(写真)やベリーの果実を練りこんだガトーショコラ、モカのチーズケーキなど日により内容が替わるので毎回楽しめます。  
セットのお飲み物は種類豊富なドリンクメニューからお好きなものをお選び頂けます。  
(ケーキ単品420円・ケーキセット800円)

営業時間 11:00～17:00 電話 024-942-2250

# 私のお気に入り、ベスト展

—みなさんの投票で、展示作品が選ばれます—

郡山市立美術館で、投票用紙に以下の当館所蔵近代作品100点の中から好きな作品を3点選び、投票箱に投票してください。おひとりさま1回、7月6日(日)まで。結果は7月16日(水)から10月19日(日)までの常設展示にて発表します。さて、あなたのお気に入りには？

7月13日(日)までの常設展示室  
展示室1●人物を描く 展示室2●日本油彩画の魅力 展示室3●スウィング・ロンドン 展示室4●版画の雑誌の世界/ドレッサーと日本の美術  
※7月15日(火)は、展示替えのため常設展示室はご覧になれません。

1 オープリー・ピアズリ 「おまえの口に口づけ したよ、ヨカナーン」	2 ウィリアム・ブレイク 「ダンテの『神曲』の ための連作」から	3 サー・フランク・ プランギン 「ヴェニス・運河」	4 サイ・E・C・ ジョーンズ 「フーローラ」	5 ジョン・コンスタブル 「デタムの谷」	6 アレクサンダー・ カズンス 「川岸に神殿のある風景」	7 ジョン・ロバート・ カズンス 「サヴォワ地方、サラ ンシュ附近のアルプス渓谷」	8 ジョン・クローム 「ヘレスドンの眺め」	9 クリストファー・ドレ ット・ジョージ 「クラレット・ジ ャグ(ぶどう酒用 容器)」	10 サー・アルフレッド・ イースト 「村の茶店、箱根」
11 トマス・ゲインズボ ロ 「オース夫人の肖像」	12 トマス・ガーティン 「エクセター大聖堂」	13 デイヴィッド・ ヘンリー・ 「オールド・ マウス」	14 ウィリアム・ ヘンリー・ 「サミュエル・ テイソンの肖像」	15 サイ・トマス・ ロバート・ 「牧師」	16 パーナード・ リーチ 「きりぎりす」	17 ジョン・マーティン 「フレッシュウォーター・ ター・ベイ」	18 アルバート・ ジョセフ・ 「黄色いマ ーガレット」	19 ベン・ニコルソン 「ワン・イン・ワン」	20 アルフレッド・ウィリアム・ パーソンズ 「箱根の秋」
21 サイ・ジョシュア・ 「エリザベス・ 人ジェーン・ 伯爵夫人の肖像」	22 ダンテ・ ガブリエル・ 「マドンナ・ ピエトラ」	23 トマス・ローランドソン 「セント・ヘンリー、 ロンドン駅に着く馬車」	24 ポール・サンドビー 「ウォリック城シザー・ タワー」	25 J・M・W・ターナー 「カンバーランド州の コールドン・ブリッジ」	26 ジョン・ヴァーレー・ ジュニア 「宮島の街並」	27 ジョン・ウィリアム・ 「フーローラ」	28 J・A・M・ 「ラル・ エッセイ」	29 リチャード・ウィル ソン 「キケロの別荘」	30 チャールズ・ワー グマン 「西洋紳士スケッチの図」
31 青津清喜 「窓際」	32 浅井忠 「収穫」	33 安藤重春 「雨の華」	34 五百城文哉 「日光」	35 鎌山鹿吉 「甲州猿橋」	36 石川欽一郎 「牛荘 (Newchowang)」	37 石川寅治 「房総風景」	38 伊藤快彦 「夏の静物」	39 大下藤次郎 「赤城駒ヶ岳の紅葉」	40 荻生天泉 「行成卿」
41 恩地孝四郎 「黒い机」	42 梶田半古 「蝶」	43 鎌田正藏 「基地の風景 (B)」	44 亀井竹二郎 「石版『横古東海道五十三 駅真景』油彩原画」から	45 岸田彌生 「銀座数寄屋橋」	46 北川民次 「アメリカ シシコ」	47 北村四海 「井鹿鹿の娘」	48 木村荘八 「祖母の顔」	49 栗原忠二 「ヴェニス風景」	50 黒沢吉蔵 「ガスタンクのある風景」
51 小出橋重 「自画像」	52 古賀春江 「蝸牛のいる田舎」	53 五姓田芳柳 「風俗図屏風」	54 小林方吾 「朽葉の袖」	55 斎藤清 「珊瑚」	56 彭城貞徳 「雪景色」	57 佐藤潤四郎 「オブジェ・羊車」	58 里見勝蔵 「軍人」	59 高木青水 「英国皇室植物園」	60 高橋勝蔵 「桃と葡萄」
61 高橋由一 「風景 (鳥海山)」	62 高村真夫 「風景」	63 武内鶴之助 「英国南部ミル牧場」	64 常盤大空 「股賦考」	65 土橋醇 「イル・ド フランス」	66 中川一政 「冬の郊外 (葱畑)」	67 中川紀元 「赤い下着」	68 中川八郎 「秋郊」	69 中澤弘光 「灯籠 夜月」	70 中西利雄 「ヴァンスの雪」
71 中村彝 「朝顔」	72 中山纈 「赤ジレ座敷」	73 野崎華年 「富士」	74 芳賀忠行 「虚構の風景一城」	75 林武 「女」	76 原無松 「霧の広場」	77 百武兼行 「風車のある風景」	78 広瀬孝次 「田園景色」	79 藤島武二 「『耕到天』習作」	80 本田晶彦 「少年」
81 牧野義雄 「郊外の春」	82 牧野義雄 「日本大使館から見たロ ンドン爆撃」	83 正宗得三郎 「東京の郊外」	84 真野紀太郎 「ウェリントン植物園」	85 間部時雄 「洛北の秋」	86 丸山長三郎 「おろかなりし歴史」	87 丸山晩霞 「少女のいる風景、春」	88 三木宗策 「威容抱 慈」	89 三坂歌一郎 「女童」	90 水田荘介 「青衣の女」
91 満谷国四郎 「冬」	92 南薫造 「印度アグラの聖地」	93 三宅克己 「ブルージュ」	94 榎方志功 「愛染菩薩図 (『雨 ニモ負ケズ』四韻)」	95 山下新太郎 「若寺」	96 山本芳翠 「園田桂像」	97 横井弘三 「料治朝鳴氏の家族」	98 吉井忠 「敗れたる風景」	99 吉田博 「ウインザー城」	100 和田英作 「上総風景」

## Report

**ワークショップ**  
「はじめてのテンペラ画講座」  
講師：鴻崎正武さん  
(画家、東北芸術工科大学准教授)  
平成25年10月19日(土)、20日(日)  
会場：創作スタジオ  
ヨーロッパの古典的な絵画技法であるテンペラ画を、基礎的な技法をもとに、金箔などを用いて制作しました。



**ワークショップ**  
「一眼レフカメラ分解講座」  
講師：井口芳夫さん(日本カメラ博物館学芸員)  
平成25年12月15日(日)  
会場：多目的スタジオ  
「夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史 北海道・東北編」にちなみ、講座-一眼レフカメラを分解してのりとりが分解しました。カメラの歴史、一眼レフの解説も含め、その構造自体を知る事ができる貴重なワークショップでした。



**講演会**  
「幕末・明治のおもしろ写真」  
講師：石黒敬章さん(ゆうもあくらぶ事務局長、日本写真芸術学会評議員)  
平成25年11月22日(土)  
会場：多目的スタジオ  
「夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史 北海道・東北編」にちなみ、幕末・明治の写真コレクターとしても知られる石黒さんに、古写真の迷宮やモデルにまつわる話などを、軽妙な語り口でご披露いただきました。



**講演会**  
「フランスとオランダの共鳴が生んだハグ派：ゴッホの原点」  
講師：古谷可也さん(ひろしま美術館学芸部長)  
平成26年2月23日(日)  
会場：多目的スタジオ  
「オランダ・ハグ派展」にちなみ、展覧会監修者でもあった講師とともに、ハグ派に見られるフランスのバルビゾン派からの影響を探っていきました。さらに、ゴッホがハグ派とバルビゾン派から多くを学んだこともよくわかる講演になりました。



**「第6回風土記の空」**  
平成25年11月12日(火)～12月15日(日)  
会場：展示ロビー  
郡山市内の中学校美術部・選択美術による作品展で、生徒自らが額装・展示をしました。参加校：日和田中学校、片平中学校、郡山第四中学校、郡山第五中学校、郡山第七中学校、緑ヶ丘中学校、小原田中学校(計7校)



**平成25年度第6回アート・トーク**  
「ものが語る、ものを語る 小泉八雲の怪談(朗読)」  
特別講師：佐野史郎さん(俳優)  
日時：平成26年3月15日(土)  
会場：多目的スタジオ  
小泉八雲ゆかりの島根県松江市出身の佐野史郎さんは、八雲の作品をたびたび朗読していることでも知られています。今回は、佐野史郎さんから、八雲に関する対談を交えながら、「霧のひとりごと」、「若返りの泉」、「耳なし左衛門」を朗読していただきました。



**ワークショップ「古典写真講座」**  
講師：三井圭司さん(東京都写真美術館学芸員) 高島圭史さん(写真家)  
平成25年11月24日(日)  
会場：創作スタジオ  
「夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史 北海道・東北編」出品作の大部分の写真は、和紙に卵白を塗った鶏卵紙にプリントしたものでした。ここでは、受講者自らが持ってきた写真を鶏卵紙に焼き付けました。



**公開ワークショップ**  
「磐梯山噴火と写真」  
講師：佐藤さん(磐梯山噴火記念館副館長)  
平成25年12月1日(日)  
会場：多目的スタジオ  
「夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史 北海道・東北編」には、1888(明治21)年の磐梯山噴火についての写真も出品されました。そこで、磐梯山の立体模型を使った実験で、土砂の流れ方を見ながら、撮影された位置や状況を考察しました。



**ワークショップ**  
「出発行！ 窓越しに見える風景」  
講師：藤田百合さん(女子美術大学講師) 藤田祐子さん(女子美術大学講師)  
平成26年3月22日(土)、23日(日)  
会場：多目的スタジオ  
大きな布を列車に見立てて、列車の窓から見える風景を想像して描きました。できあがった作品は、ロビーに展示しました。

